

今 日、都市の修復と更新は社会にとって最大の課題であり、双方バランスよく営むには都市経営が必要とされている。私は建築畑の人間だが、現在、土木工学分野の専門家と連携協力して「外濠再生」構想プロジェクトに取り組んでいる。江戸東京の形成過程を見据えて、現代の課題を解決しつつ、より良い都市環境を創造して後世に遺すための構想で、計画には土木、建築、造園分野の連携と協力が不可欠だ。水をきれいにし、まちと濠をちかづけ、世界に誇る文化的な公共空間と都市景観をつくろうと提案している。地域と関係諸官庁の間になつた大学の役割は大きい。

この一〇〇年を振り返ると、日本の都市は復興を果たし、近代化、耐火、耐震、高性能化が図られてきた。世界各都市もまた、集積、造営、破壊、復興を繰り返して歴史を紡ぎあげてきた。たとえば、超高層建築は二十世紀初頭に生み出された建築型でシカゴはその故郷だ。シカゴは商工都市として大発展した。一方、シカゴは十九世紀後期に大火に見舞われて一度壊滅している。復興を契機に、耐火技術が進展、治水運輸のための土木構造物が造られ、二十世紀初頭には鋼鉄の大型構造物が登場、近代高層建築の故郷になった。現在のシカゴ中心部では、街の足元には運河がめぐり、多くの橋梁が架けられ、水際には人工地盤と多層の自動車道路が造られ、ミレニアムパークの背景には高層建築が美しく

各 人 各 説

シカゴにならう

東京理科大学工学部 教授・建築家

宇野 求

Motomu Uno



建ち並ぶ。広いウォークウェイは花と植栽で彩られ、快適な街路を創り上げている。市民による基金や企業の寄付によって公共事業が進められていることも特筆すべき特徴だ。インフラ、建築、ランドスケープが連携して、市役所と市民が一体となって都市造営を行っている。「外濠再生」についても、市民、地域、行政の専門家が同じテーブルについて連携協力することが必要だ。建設業は都市の建造を担う公共性の高い重要な仕事であるから、シカゴにならう市民の支援と賞賛を受けて仕事にとりくむことが望まれ、そうした社会は、市民と専門家が連携協力して都市を建設造営するなかで培われ構築される。皆で協力して復興、開拓、経営する時代を迎えているのである。



外濠再生構想プロジェクト、東京理科大学案「近づくまちとほり」
2014年5月



シカゴ中心部。運河、道路、人工地盤、高層ビル、パーキングほかが統合されて設計計画、造営されている。